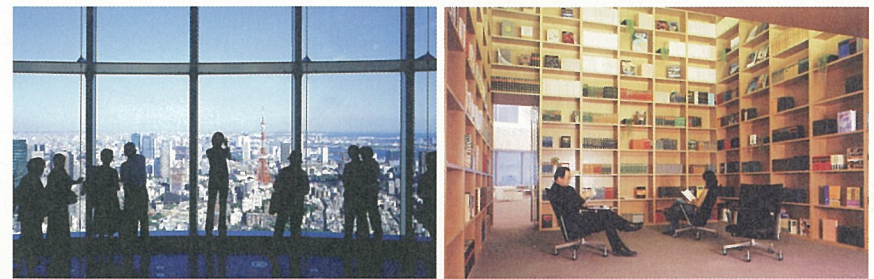




伊藤さんもよく利用している東京シティビュー(左)やアカデミーヒルズ(右)。



朝食サービスも行っている六本木ヒルズスパ(左)、東京国際映画祭のメイン会場となっている六本木ヒルズでは、毎年、国内外のスターたちがグリーンカーペットを歩く姿を見られる(右)。



六本木ヒルズレジデンス D

所在地/東京都港区六本木6丁目12-4
 アクセス/東京メトロ日比谷線・都営地下鉄大江戸線「六本木」駅より徒歩約5分、
 東京メトロ南北線・都営地下鉄大江戸線「麻布十番」駅より徒歩約9分
 サービス/24時間フロントサービス(バイリンガル対応)、健康相談室、
 室内設備メンテナンス、ハウスキーピング。
 備考/トランクルーム、駐車場、棟内のスパ&フィットネス「六本木ヒルズスパ」のほか、
 都心3カ所にある「ヒルズスパ」利用可能
 賃料/1R 30.75㎡〜 月額370,000円〜、1BR 53.15㎡〜 月額600,000円〜
 2BR 79.13㎡〜月額950,000円〜
 ※最短契約期間は1ヶ月とさせていただきます。
 ※上記サービスは一部有料となります。
 ※契約期間などにより、提供するサービスについてはご相談可能です。
 お問い合わせ/森ビル株式会社 住宅営業部 ☎0120-52-4032 WEB: www.moriliving.com

楽しい暮らし、安心の住まい、 六本木ヒルズレジデンスを選んだ理由

「六本木ヒルズだけで全てがまかなえて、自分で楽しみ方を作っていけるのがうれしい」。衣・食・住・遊が共存する六本木ヒルズで、職住近接の暮らしを満喫している居住者の方に、六本木ヒルズレジデンスに住む楽しさ、魅力を聞いてみました。

インテリアはコンランのデザイン

「六本木ヒルズって、六本木エリアの中でも他と全く違う雰囲気を持った1つの小国みたいです。中学のとき、しばらくモノコの近くに住んでいたことがあるのですが、六本木ヒルズに足を踏み入れたときの



「東京に住むならここ以外考えられません」と伊藤さん。

感じは、南仏からモノコに入ってきたときに感じた印象と似ている。そう思います」

6年前から六本木ヒルズレジデンスに住んでいる伊藤さんは、最近、経営する会社も六本木ヒルズに移転し、「1つの小国」の中だけでほとんど生活していると言います。

伊藤さんが住む六本木ヒルズレジデンスD棟は、家具や食器、家電などが完備されたサービスアパートメント。その11階〜18階はコンラン&パートナーズのデザインによる「デザインアパートメント」で、Spiritualist, Humanist, Hedonistの3つのデザインコンセプトがあり、伊藤さんが選んだ部屋はSpiritualist。

「もともとコンランのデザインが好きで、賃貸では珍しい塗り壁やフローリングが

特に好きですね」

港区白金で生まれ育った伊藤さんが、六本木ヒルズレジデンスに住もうと思った理由は、「港区も昼間の人口がどんどん増えて、車移動がしづらくなってきました。ここなら徒歩圏内で全てをまかなうことができるから」

ほとんど六本木ヒルズで過ごしているという伊藤さんは、月に一度、九州に購入した家に行くそうです。

「ここからだ首都高の入口も近いので、早朝なら羽田空港まで車で15分くらいで行けるときもあります。浜松町にも近いのでモノレールに乗るにも便利」

賃料には光熱費の他、週2回のハウスキーピングやヒルズスパ利用料金(六本木ヒルズスパ、アークヒルズスパ、グリーンヒルズ

スパ、元麻布ヒルズスパの4カ所を利用できる)などが含まれています。

「ほぼ毎日スパへ朝食を食べに行っています。料理をしないので、食事はたいてい六本木ヒルズのどこかで食べていますね」

楽しくて安心。だから長く住みたい

もちろんフロントサービスは24時間、レジデンス内には健康相談室や居住者専用ラウンジもあるほか、居住者限定特典プログラム「MORI LIVINGスマイル」を利用して様々な特典を受けることもできます。「MORI LIVINGスマイル」は、六本木ヒルズ・表参道ヒルズ・ヴィーナスフォートなど約130の施設・店舗で、貸切ショッピング、新作発表会への招待、ケータリングサービス、特別割引、約240のショップやレストランでの優待サービスなどが受けられるMORI LIVINGならではの内容です。加えて、利用に応じてポイントも貯まります。

「六本木ヒルズクラブやアカデミーヒルズなどもよく利用しています。森美術館や、

展望台が好きなので東京シティビューにもよく行きます。本当に六本木ヒルズの施設やサービスをフル活用しています。東京国際映画祭やアリーナでの様々なイベントも見ることができて、楽しさが尽きないエリアです。毎月開催される居住者限定のイベントにも参加したりしています」

それだけでなく、六本木ヒルズの建物自体も楽しいと言います。「カーブが多くて入り組んでいるので、歩いているとこれまで気がつかなかった小路やショップを見つけたり、意外なところにエレベーターがあったり、今でもいろいろと発見があります。パーキングもデザインが場所ごとに違う雰囲気になっていて、よく考えられているなあと感じます。六本木ヒルズは自分で楽しみ方を作っていけるのがうれしいですね」

ヒルズライフを満喫している伊藤さんですが、実は、こうした施設やサービス、エンターテインメントだけで、居住することを決めたわけではないのです。

「いちばん気に入っているのは、非常時の対応が安心なこと。自家発電をはじめ、六

本木ヒルズは街全体で防災を考えているのがうれしい。まさに1つの小国です。東日本大震災のとき、ここに住んでいて本当によかったと思いました」

毎日の暮らしに刺激や潤いを与える楽しさ、その暮らしを支える安心・安全。

この両者を備えた六本木ヒルズレジデンスに、伊藤さんは出来る限り長く住み続けたいと言っています。



六本木ヒルズの地下にある自家発電施設。東日本大震災で電力不足が叫ばれたとき、電力を送り続けた。